

光

線

子

巻



15
1278

15
1278

旧
2132
35



葛糸子序



多^ナ里^リを^キ本^コ末^ノ一^ノと^スる^ニて^ハお^の根^ノの^ナキ

出^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

一^ノと^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

只^シと^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

多^クと^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

本^ノと^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

一^ノと^スる^ニて^ハ根^ノの^ナキ^ニて^ハ根^ノの^ナキ

持

志あり人あり〜時を顔実を〜

換〜時を心算〜何そ存心よ〜

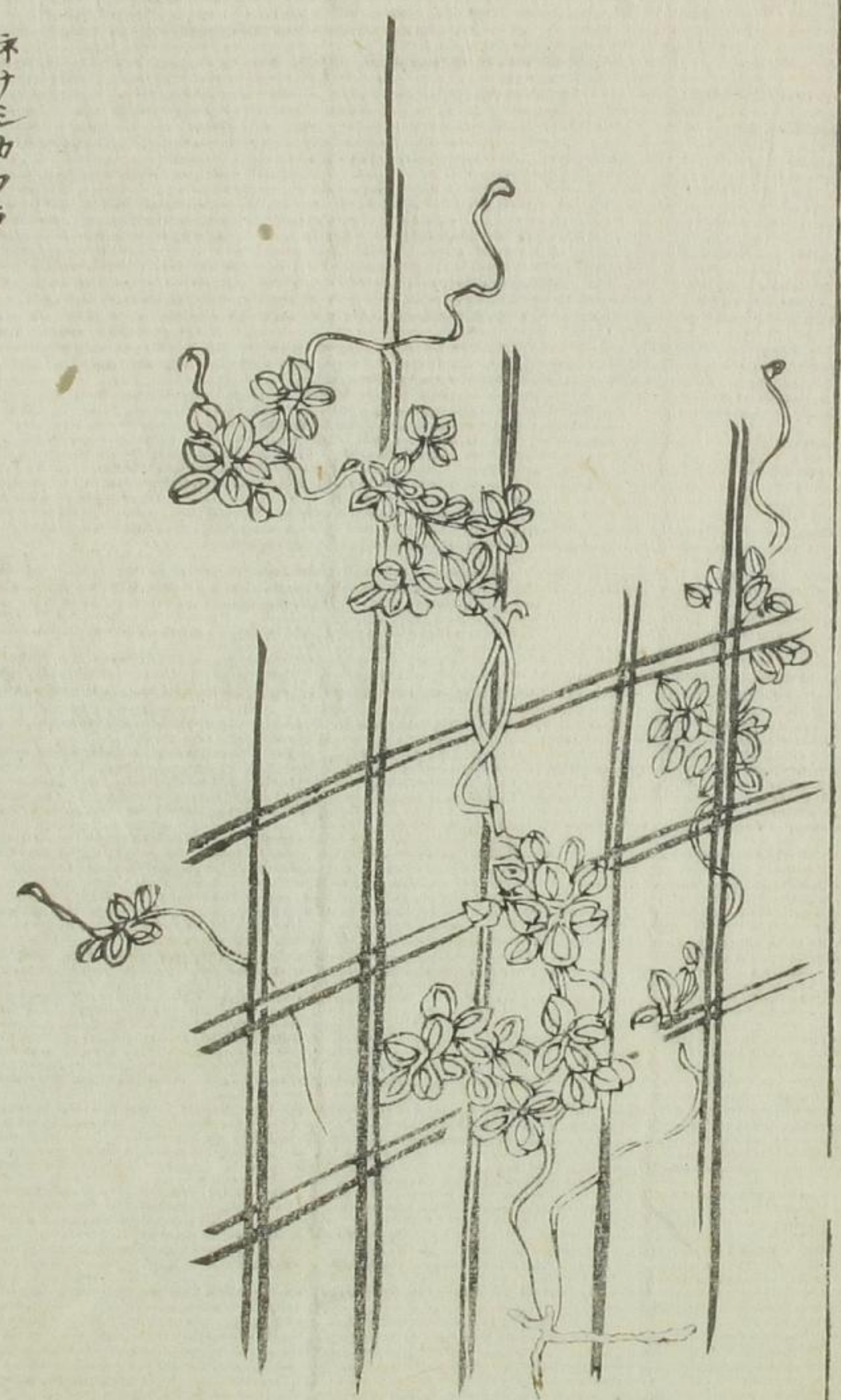
〜求ある何某一杯の酒乃

酔あるよ〜根を

〜は〜

加〜者よ〜

藤原象正



ネナシカウラ
菟絲子

純澤筆

三



何某先生とていみじく博士あ
 いたれのゆゑむゆふのまゝ何
 了るやゆやもらこの書籍ごと
 らぬ三史五經の巻々いりやも
 朝学は古事記日本紀もももも
 万葉古今の古歌を吟ひ律令格
 近々れど大寶令、淡海大津の
 いたるに世のあらはるるを正
 いろはにあらはるるを正し家
 形つらうとせとせし移らば
 操あつて世よとせしとせし
 色ひまげあつて袖せとせし
 とせしとせしとせしとせし
 大学國学のあらはるる世

今事
 公荷
 宿花
 三記
 三記

進士とあり博士とありあるは考るるに今の世を學ぶの
 ちのりもあやうしにめあさども今の國學はいま一乃
 國學といふは心の一を大學寮少く學ぶも大學といふ國
 也凡四道儒者第一等秀才第二等明經第三等明法第四
 等筆道也ゆのれ懦弱なること紀傳明經の二道を兼備たる
 ありれ寮試あざとせしむる文人擬生るとはしるは
 式部省の課試よめされく放寫の試あざとせしむる誰のそ
 このおまも出林はくはけ頃乃世間小なきの童子と
 扱ひあざうい學ぶものづらゆのく門となて彼は何某の殿
 小とされたる是の殿の扱ひゆきされたるあざとせしむる
 かさるるつらつあざとせしむる業あり世の人より眼乃

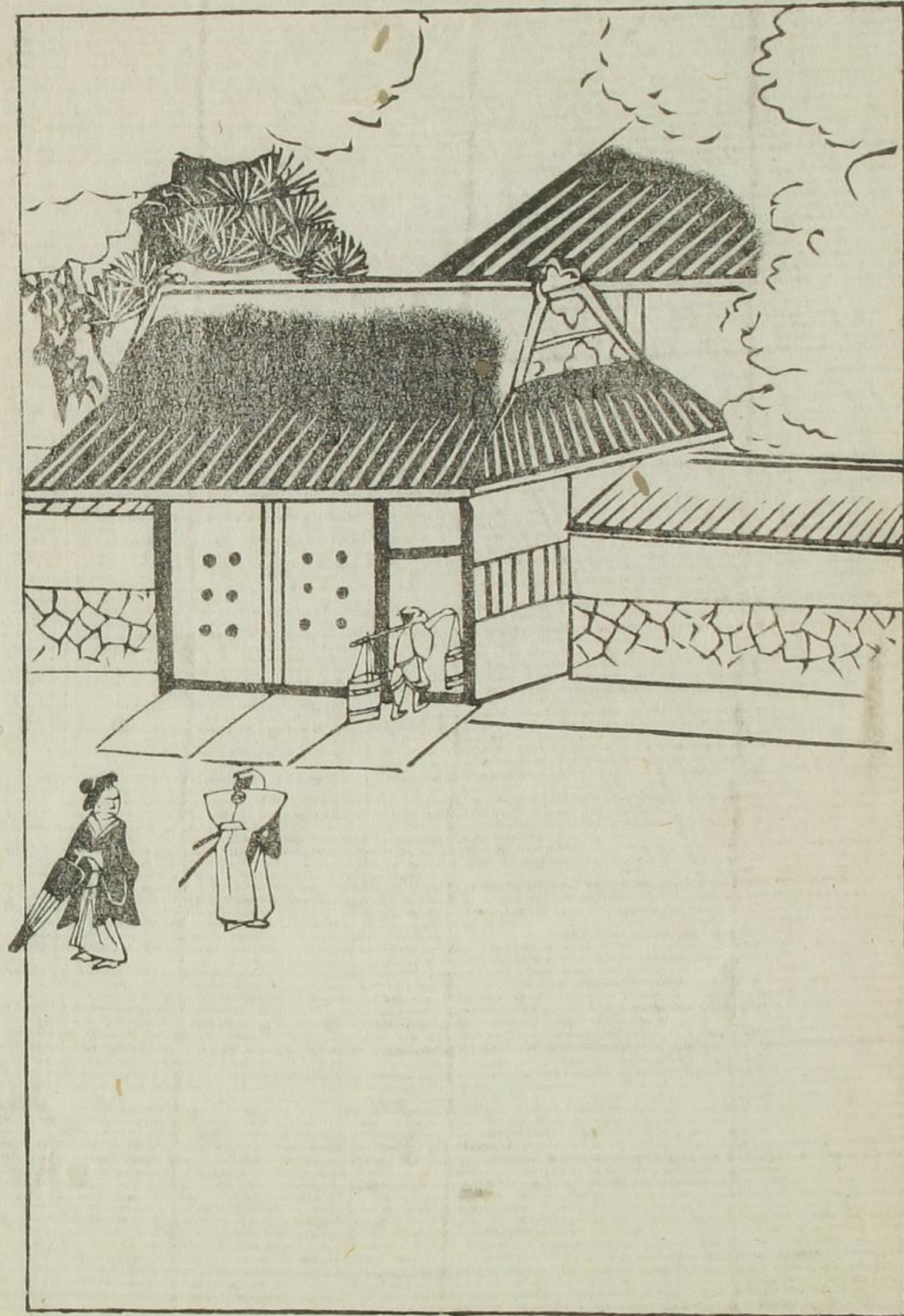
ありしとあえのほあといつあをむむる床かす発憤
 一さふあや昔の人の山よ入竹の林よかられ免今我と
 いつあむいほの中をこのよとせしむるむとゆい入る机の
 上につら杖つたてそらつて眠るれを後とあく現と
 なく一人の貴客出現るいせんざのくその終をびいし
 學のほはう一人よ用ひられざる錢いたどあらしくやふ
 いとあやゆら拙劣とあり人の己を不知を熱いび
 とつらびやいし學の及ふを勉強たれと世の變改
 を志しづ時世小あはざとせしむる故小用ひるまはあり又
 記のよみの童子ありとせしむるやいむびつらしむる學
 えはるる舞ふと何ぞ新舊のくらめあらん學者ハ茶
 器小らびるるのこをたふさふとせしむる正

○菟絲子

大家の古門、
そとへ
こ出入の景



三



記をもちて信用べき也次ハ時をまづりて肝要也今
アヤシクもととをたれちり記いり一乃古今集の序
ふらり今世の中いりふつふ人ぬ花よありまきりに
ふりここのる居をさるばるや師て今世の人乃ら流る
水の沫よりまきこころあく風ふ散雄花の飛よりと
ありあつれをたつ珍奇ふめをこころつて法師を
神代巻を記記法師ハ平家とありて
源氏を記額突て聽聞人ゆかりを思ふべし
いしとこの見よなるうらげ一古学者といひあつて
の古言をこころい儒者ハ假字ふりけりねとて見識や
以是皆正實の道ふあつてといふあつて人なり猶甚
れり武士ハ両刀と茶肆ふあつて平人と云せ商人ハ黄

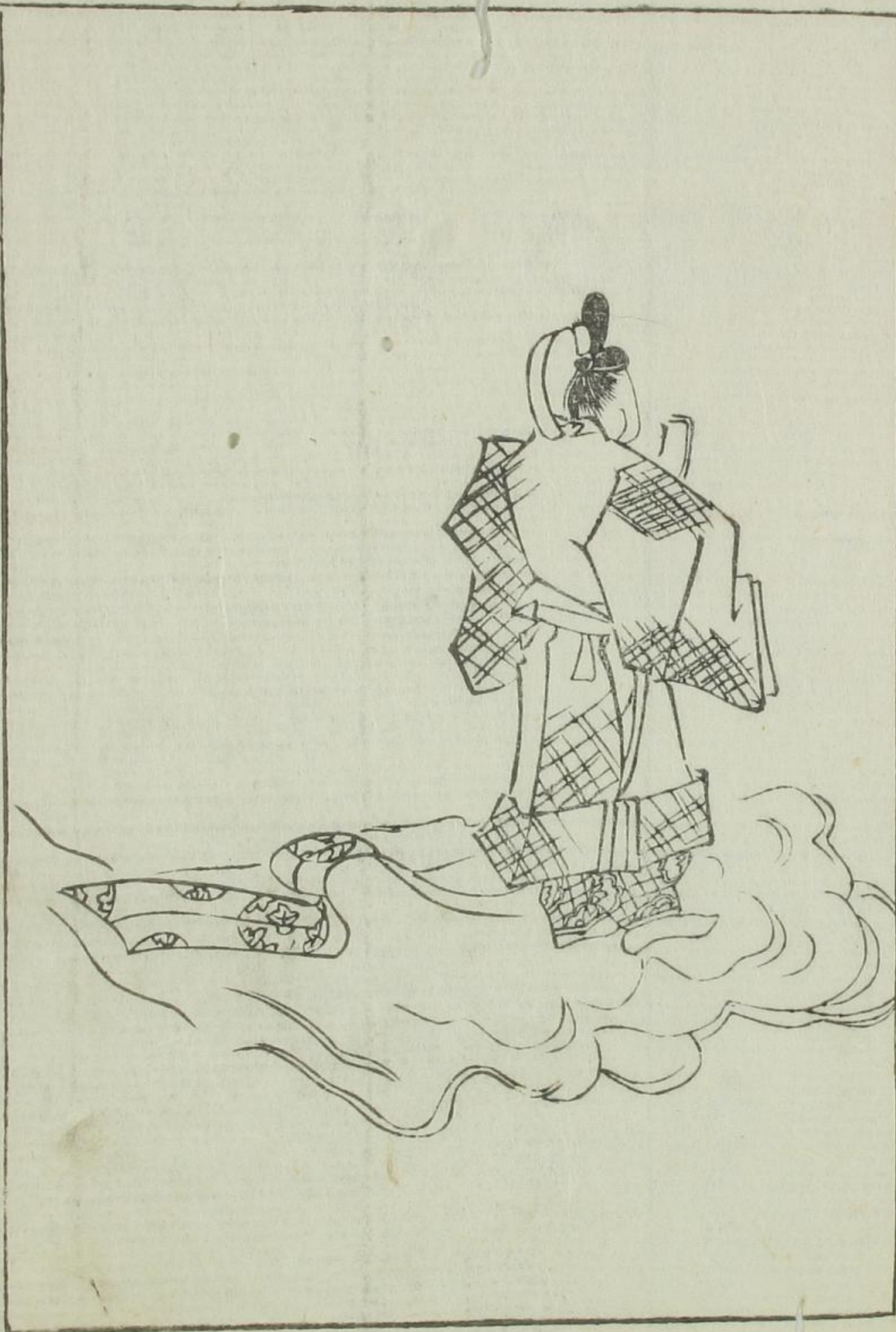
金と云て帯刀とあるなり今や一今や世はゆら
りてをさるいりしむ一汝授るひらの寶をさる免表
ありとて記の表を賜ふいとつて真袖を受たり
るつていふある人せやいそま礼拝有れ此糸袍なり
く厚額の冠を着給て夢なりとらる免表といふいと
おもつていふあつてい狐表黒貂表ふとて古書
もとみんた免表といふとまきつていふあつてい
君をいふ御方ふの御一まらと思つていふあつてい
汝和漢の博士といふあつてい我をいふあつてい
中書王小人君宮の長男何某中納言の幽霊也その不意
菟の字と讀誤て世人の誹謗をうけたる我のあつて
口をくられ其遺恨あり記世ふらりてあつてい

○菟絲子

ひも亦空言あり大方是ホもてて押一はのを正實と虚
偽とも抑ひいらるる處一必しも人よかきとをのれものいさ
う多た誹謗もやうづれた人の臧否もつする君子れよくむ電
唯汝の不審を晴しむむぞ一我後小付て来ぶ一と雲霧
をこらうらるる一てるもあく大なるは後園ある如ふ出ぬひと
つ此御門をつとびつづのめ一此御殿もそそ其杜巖あごのひまろ
がひもをらうらばぬ玉をみつれて造りたててうらうらとかの浦寫の
子ぐいたうらるる海神宮車持の由子の玉の枝尋ねひむむ蓮
菜の山やあゝ森とゆふゆでめてなく造つたる嶋のた々
をゆひ眼もらや小玉をまらうらぶらうらとふらうらむらうらうら
世小目あれぬ草木どもなたて原中をあれむらうらうらむらむら
はる殿の前小あうらるる名もまらぬ草木ども限るるあうらなうら

中ふねひらうらうらうら人の心もやうらうらうらふいと美麗麻印花白器ふ
ふはつる竹の植を結うら一具植ふ延のびうらなる蔓草をよけ
葛小指はぬひてゆふの蔓草をまらうらやあまは是荒絲葛
あり竹をかふ延のびうらて人ゆら愛らるる根絶切て土ふつ
つらうら筋をらうらうらうらうら一は竹をまらうらをよけうらひもふ
蔓の取付たと手蔓をうらうらうらある都て蔓草の類もうらうらあは
りのらけ手蔓をうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
つらうら求むらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うら吹簾を求て延のびうらうらうら荒絲子ふらうらうらうらうらうら
うら豪家ふらうらうらうら何某も何の御館ふらうらうらうらうらうら
せあうら鼻うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

○菟絲子



小倉の中納言の聲

母中へあり

送るべき



てあやふたふかきまじり身とらきりめんものぞゆるりあれたる
とくをんもくく生涯の安れをえり今よりこのかたも及
はらざるふんをみづりけりては是よりまじりて小大文字ふ
て諸生しりしをて免絲字してて寄生と名やまじりしきこえ
まじりてありつ子伊くもつれたる寄生やまじりて和名抄小寄
生名寓生和名夜止里木一云保夜とてえり別字者の保夜々々
云是也万葉十八の歌や保與とてえり源氏抄ゆや鳥とよ
そつていつしそよ小本寄々延のちるおれをまじりてあ
毛詩注小葛ハ寄生也とあれをみま根のかこつてぬものぞ似
ゆるりてありつ子伊くもつれたる寄生やまじりて和名抄小寄
二片のまのま也まじりてあつて先生忽高慢の氣を生しは
つげやべたしものあつてを忙然とてこつてつてつた

おのれ何を尋常の免絲字の元来貞操正一松うてま
をまじりて大木とての棟梁たるむては然るが昔吉野拾遺とよ
書をみまじりて天狗とてのまじりて大木とての松をまじりて
小松とてのまじりて奇聖業とてのまじりて小松とての亦大木と
むとてのまじりてあつてまじりて術とてのまじりて空音
あつて一志ありての風とてのまじりてと音とて降る神ありて音
聞驚とてのまじりてあつてまじりて見ありてを御面赤く鼻と
高れ神赫然とてはまじりてあつてあつて小大文字の神代
の昔天の八衢とてのまじりて猿田彦の大神の出現はりて音
のめくおれとてのまじりてあつてあつてあつて音とて音の
宿ふありてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
せい出神とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
○菟絲子

○菟絲子

○菟絲子

大正物
大人を

菟
園



十二



白蛇とみえ鯉魚と鯨魚ととる也この終つた又終つたを
小白魚コハシ小四コヤウ入て真真板の上ふあり鯉魚ヒシユハ猫小ネコあたる
と投入トウイするはゆるく鏡具の端小あり鯉魚ヒシユハ何ナニの果ミも
あめを壁を破行出たる壁虎ありとの終つたあれは
蠢居たり先生奇異のやひるもあはるが額突カシ根ネ絆ハ
もつていゝのあく奇キく靈レイ鏡キョウ御鏡ミタマありかくちひる
虫ども人とのむげはつうの大物とみえするこの大木をす
小のたつと表裏ふていふせんよはさの海あり其御
鏡ハ何とものや仔細シジミも小是ハ神通力神鏡也このつみ
を人間界とて天眼鏡とて則眼鏡也この眼鏡もつみ
まを目高メタカ真マコの果虎とみえ猫子ネコハ猛虎とみえ之は氣キ子シ短
観音カンオン現ゲン一イツ登トウハ赤鬼アカオニとみえあり是もの人問のよとみ

ハ破戒法師トウボウフシも智職上人とて生歌人ハ歌聖のぶく、ゆゆ也
大木を小木とみえゆるめをけがこの裏とみえみえ也近世
人間界小無志眼鏡とつみの流行あり是を硝子シヤウシをては
こを真似マニひひりりみえ偽物イタダあれども無志ムシの眼メあり
あひて大方ハ鏡小カガミちかハ鏡カガミをのりみるハ醜ウシ女メ
美人小人ハ大人とみえ也此小あのみを和むる時ハ醜ウシ婦メ忽ト表
人ヒトとみえ百両ヒヤクリヤウの呉服料をえ小人とやがて大先生ダイセンセイとみえられ
三口五口の御給をえ権威ケンイと今汝が鯉ヒシユを鯨クジラとけこみ
やハ眼鏡カガミの光をさふめをさひて又地小落てみる
うげとあ天小口あり人をとりていゝむといゝあつた世
人ヒトりらるる無志眼鏡ムシカガミの業ありあをてて彼ハ殿トの御眼
鏡カガミらび也是ハ誰タレが眼鏡カガミらびあつとよとよあふふ
○菟絲子
十三

おめうの子
小人を
天人と
見し因



